

平野俊夫総長の足跡

2011.8~2015.8
トピックス

2011年

- 8月26日 ・第17代総長就任
- 11月 ・審良静男特別教授ガードナー国際賞受賞
- 12月 ・未来戦略機構設置
・博士課程教育リーディングプログラム採択(2件)



2012年

- 4月 ・新運営体制、全学教育推進機構開始
 - 5月 ・未来戦略2012-2015「22世紀に輝く」策定
・学内財源配分の見直し策定・実施
・施設老朽化対策計画策定・実施
 - 6月 ・スロバキア共和国
イヴァン・ガシュパロヴィチ大統領来学
・平野博文文部科学大臣来学
 - 7月 ・総長顕彰・総長奨励賞制度開始
 - 10月 ・豊中キャンパスにまちなね保育園開園
 - 11月 ・金森順次郎第13代総長逝去
-
- ・博士課程教育リーディングプログラム採択(3件)
 - ・国立大学改革強化推進補助金事業採択
 - ・卓越した大学院拠点形成支援補助金事業採択
 - ・産学共同の研究開発による実用化促進(大学に対する出資事業)採択
 - ・リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備事業採択



2013年

- 4月 ・世界トップ10に向けた支援策策定・実施
・未来トーク開始
 - 6月 ・未来戦略シンポジウム開始
●天皇皇后両陛下下行幸啓
●安倍晋三内閣総理大臣来学
 - 7月 ・吹田キャンパス総合グラウンド(すいらん)竣工
 - 7月 ・特別教授称号授与策定・実施
 - 8月 ・総長顕彰・奨励賞表彰策定・実施
 - 10月 ・適塾創設175周年記念シンポジウム開催
・未来基金創立100周年ゆめ募金開始
・国際共同研究促進プログラム策定・実施
・未来研究イニシアティブ・グループ支援事業策定・実施
・日独6大学学長会議出席
・日中学長会議出席
-
- ・研究大学強化促進事業採択



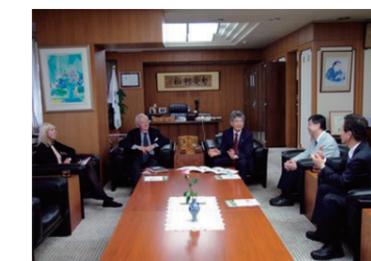
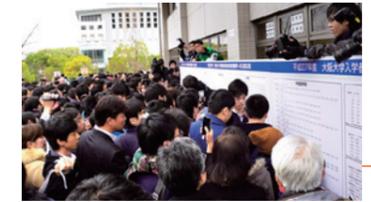
2014年

- 1月 ・博士課程教育リーディングプログラムフォーラム開催
 - 4月 ・世界適塾構想策定
●震が関に東京オフィス開設
●最先端医療イノベーションセンター竣工
・文理融合型研究棟竣工
・吹田・豊中に未来戦略機構拠点設置
 - 5月 ●適塾改修リニューアルオープン
●湯川秀樹愛用の黒板、学位論文披露
 - 6月 ・日英研究教育大学協議会出席
 - 8月 ・マチカネワニ化石国の登録記念物指定
 - 9月 ・未来基金30億円突破
 - 9月 ・秋季卒業式実施
 - 10月 ・秋季入学式実施
 - 12月 ・UC/UC EAP大阪オフィス開所
・大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社設立
-
- ・スーパーグローバル大学創成支援事業採択



2015年

- 2月 ●ロシア科学アカデミーと学術交流協定締結
 - 3月 ・世界適塾入試導入発表
●10年ぶりに入試合格者を掲示板発表
 - 6月 ・大阪大学オリジナルウイスキー「光吹-MIBUKI-」完成
・坂口志文特別教授ガードナー国際賞受賞決定
 - 6月 ・QS「2015アジアランキング」国内2位
・西尾章治郎教授を次期総長予定者に選出
●ガードナー財団のJohn Dirks総裁来学
●箕面キャンパス移転発表
 - 7月 ・環太平洋大学協会(APRU)第19回年次学長会議開催
・南部陽一郎特別栄誉教授逝去
・最終講義
 - 8月25日 ・総長退任
-
- ・大阪大学名誉教授



平野俊夫総長 4年間の理事・監事

2011.8.26～2015.8.25

■理事

恵比須 繁之 (企画、評価担当)

2011.8.26～2015.8.25

東島 清 (教育担当)

2011.8.26～2015.8.25

馬場 章夫 (産学連携・情報担当)

2011.8.26～2015.8.25

相本 三郎 (基盤研究・リスク管理担当)

2011.8.26～2015.8.25

尾山 眞之助 (人事労務・多様な人材活用・事務改革担当)

2011.8.26～2014.1.30

阿部 顕三 (財務戦略担当)

2011.8.26～2013.8.25

江口 太郎 (広報・社会学連携担当)

2011.8.26～2013.8.25

高橋 明 (国際戦略担当)

2011.8.26～2012.12.31

大竹 文雄 (財務戦略担当)

2013.8.26～2015.8.25

岡村 康行 (国際・広報戦略、社会学連携担当)

2013.8.26～2015.8.25

大木 高仁 (人事労務・多様な人材活用・事務改革担当)

2014.2.1～2015.8.25

■監事

関 順一郎 山崎 優 内藤 欣也

～2014.3.31

2014.4.1～



恵比須 繁之

(企画、評価担当)

平成23年8月に就任して以来、ゆっくり熟慮した後に行動するというよりは、走りながらあるいは歩きながら企画するという4年間でした。「適塾から世界適塾へ」という平野総長の合言葉の下、未来戦略機構の創設や、学生・教職員のためのキャンパス環境の整備、さらには施設老朽化対策の策定や大学留保ポスト(所謂90%ルール)の実施といった痛みを伴った施策を、関係者のご協力によって遂行できたことを感謝しております。半世紀近い年月を過ごさせていただいた大阪大学の更なる発展を祈念しています。



東島 清

(教育担当)

平成23年度には博士課程教育リーディングプログラムを実施する未来戦略機構、平成24年度は全学教育推進機構・教育学習支援センター(TLSC)・キャンパスライフ支援センター、平成25年度からは教育目標・3つのポリシー策定とカリキュラム改革・入試改革・教育国際化を一体的に推進する教育改革推進会議、平成26年度にはグローバルアドミッションズオフィス(GAO)設置とスーパーグローバル大学「世界適塾」など教育改革に邁進して参りました。皆様の多大なご協力に感謝いたします。



馬場 章夫

(産学連携、情報担当)

もっとも印象に残っているのは、平野先生のお部屋で理事になるように告げられ、なぜか即答してしまった4年前のことかもしれません。そのあとは、これまで全く経験したことのない世界に触れながら、息継ぎをする暇もなく全力で泳いできました。後ろを振り返ることはほとんどなく、時々山の頂上を通過したとしても意識すらしないような感覚の4年間でした。少し時間をかけて整理し、色々と思ひ出してみたいものです。



相本 三郎

(基盤研究、リスク管理担当)

世界適塾構想を具体化することに奮闘した4年間でした。世界中から学生や研究者が集まる魅力ある大阪大学となることを目指して、研究推進や研究環境のグローバル化のための一連のプログラムを策定し、実施して参りました。未来戦略機構の4つの研究部門の創設や、国際共同研究促進プログラムをベースとした国際ジョイントラボの全部局での立ち上げなど、大阪大学の未来戦略を推進する基礎作りができたのではないかと思います。



大竹 文雄

(財務戦略担当)

財務、未来基金、卒業生室の担当でした。運営費交付金の減少が続く中、人事院勧告上昇による人件費増加、電子ジャーナル価格・電力料金の上昇など、財務担当としての環境は悪かったと思います。予算を削減するという悪役を演じてきましたが、関係者のご理解で財務改革は進展したと思います。未来基金へのご寄付も増えてきましたし、卒業生のネットワークも強化されてきました。ご協力いただいた方々のお陰です。皆様に感謝いたします。



大木 高仁

(人事労務戦略、多様な人材活用、事務改革担当)

縁あって本学にお世話になり、左右覚束ない中で平野総長及び理事・監事の皆様方には言い尽くせぬ御指導・御厚情を賜りました。私が担当の人事制度については、年俸制、クロス・アポイントメントなど、総長のリーダーシップの下で他に先駆けた構想が既にできあがっており、それを本学に最適化させることが私の課題でした。その成果は現時点ではまだ定かではありませんが、いずれにせよ大変よい仕事をさせていただいたものと感謝しております。これで平野執行部は解散となりますが、皆様方の末永い御健勝・御活躍をお祈りいたします。



岡村 康行

(国際・広報戦略、社会学連携担当)

「国際・広報戦略、社会学連携が担当である」と総長から言われたとき、本当にこんなに多くのことが自分に果たしてできるのかと正直思いました。無理を承知で役割をこなして、なんとか皆様のご協力でごここまでやってこられたと思っています。APRU学長会議の開催、海外拠点の充実、国際戦略の策定、東京オフィスの設置、近隣自治体やメディア、海外の大学との良好な関係構築など、多くのやりがいのある仕事を与えられ、充実した2年間でした。大阪大学の発展に少しですが貢献できたことを誇りに思っております。

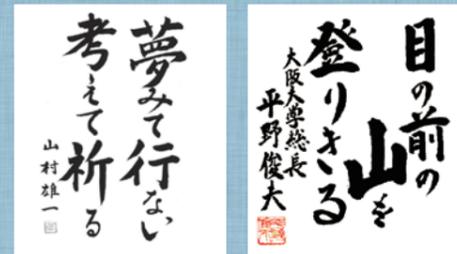


平野俊夫総長 最終講義

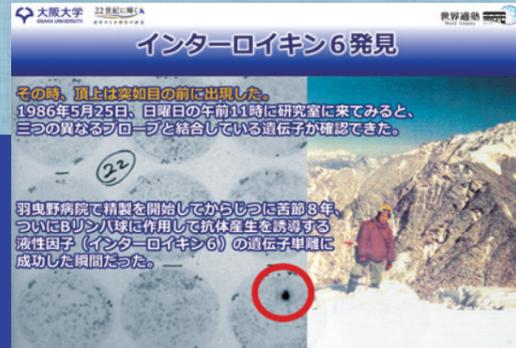
免疫学者として、総長として
来し方を思い、未来を想う――

▶ 2015年7月14日

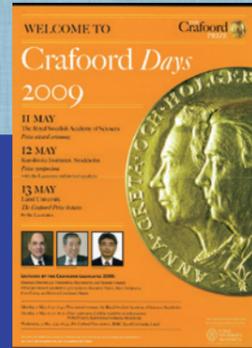
動画 平野俊夫総長最終講義 (2015.7.14)
youtu.be/uIe3SuJwjUA



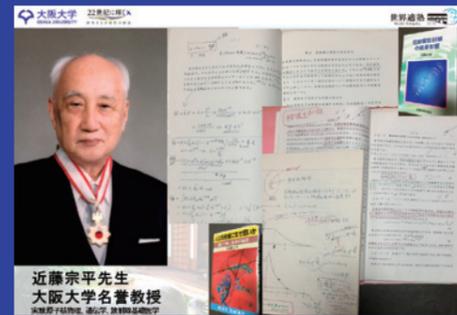
2015年8月25日に退任する大阪大学第17代・平野俊夫総長が7月14日、吹田キャンパスのコンベンションセンターで最終講義を行い、「夢は叶えるためにある」と語りかけました。講義は、豊中キャンパス、箕面キャンパスなど4カ所でも中継され、学生や教職員、学外関係者など約650人が聴講しました。



「1978年から実験を始めましたが、その道りは険しい山道に登るような、そんな感覚に似ていました。それでもひたすら前に進み、険しい山道を登り続けました。『免疫応答の本態を突き止めた』という強いモチベーションがあったからです。」――平野総長講義より



2009年5月、スウェーデン王立科学アカデミーから、岸本忠三元総長らとともに、日本人として初めてとなるクラフォード賞を受賞



皆様一人一人の力と英知を合わせて、
大阪大学を「世界適塾」へと導いてほしいと思います。
それができるのは他でもない、
教職員・学生の皆様一人一人の力です。
「夢は叶えるためにある」
私と共に走り続けてくださった
役員、教員、事務職員、研究室の皆様、
本当にありがとうございました。

天の川
世界適塾
はるかなり
俊夫

1947年4月17日大阪府生まれ。1972年大阪大学医学部卒業。1973年より1976年までNIH留学。大阪国立羽曳野病院内科を経て、熊本大学助教授、大阪大学助教授、同教授、生命機能研究科長を歴任。2008年4月から2011年3月まで同大学院医学系研究科長・医学部長。2011年8月26日、第17代大阪大学総長に就任。(任期：2015年8月25日まで。)2005年～06年日本免疫学会会長。日本学術会議会員。総合科学技術・イノベーション会議議員。サンド免疫学賞、クラフォード賞、日本国際賞などを受賞。2006年紫綬褒章受章。専門は免疫学。免疫機能における情報伝達において重要な働きをするインターロイキン6 (IL-6) を発見し、そのメカニズムと自己免疫疾患との関連性を解明。